

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



2024-25年度 RI 会長 / ステファニー・アーチック
RI.D2590ガバナー / 長戸はるみ
横浜旭RC会長 / 北澤 正浩

カールスカウト
とクリーン作戦



第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33 / 〒241-0836
TEL.080-1215-6668 / FAX.045-362-0024
<http://yokohamaasahirc.org>
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3 / 4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日 / 12時30分～1時30分

2025年5月7日 第2578回例会 VOL.56 No.31

■司会 SAA 関口 大樹

■開会点鐘 会長 北澤 正浩

■出席報告

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 会員数 | 21名 | 本日の出席数 | 15名 |
| 本日の出席率 | 71.43% | 修正出席率 | 80.00% |

■本日の欠席者

日向、中谷、二宮、宋、福村

■他クラブ出席者 中島 (地区)

■ゲスト 酒井リカ様 (神奈川県立がんセンター 病院長)

■誕生日祝い 佐藤 利明会員



■会長報告 北澤 正浩

大型連休も明けましたが、皆さまはゆっくりお休みできましたでしょうか？

お仕事の合間に少しでもリフレッシュできていれば何よりです。

私はこの連休中、家族とともに群馬県前橋市

にある「臨江閣(りんこうかく)」を訪れました。臨江閣は、明治17年に迎賓館として建てられた近代和風の木造建築で、現在は国の重要文化財に指定されています。

驚いたのは、そのような貴重な文化財であるにもかかわらず、実際に建物の中に入って見学できることです。ほとんどすべての部屋を自由にみることができ、当時の趣を感じながらゆったりとした時間を過ごすことができました。皆さまも機会がありましたら、ぜひ一度訪れてみてください。とてもおすすめの場所です。

さて、皆様に以前お願いしておりました「ミャンマー地震支援基金」へのご寄付につきまして、温かいご協力を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで、多くの支援が集まりましたことをここにご報告いたします。先週、AFCの伊吾田様より、お礼のメールをいただいております。現地では、依然として混乱した状況が続いており、支援の手がまだまだ必要とされております。当クラブとしても、今後も機会があれば、継続的に支援を行ってまいりたいと考えております。

以前、ご講演いただいた水谷先生に関するご報告です。このたび、「避難所・避難生活学会」が開催され、水谷先生もご出席されました。そ

の中で、全国で初めて実施されたイタリア式避難所訓練の様子が、テレビ番組にて紹介されたとのこと。避難所における新たな取り組みがどのように行われたのか、多くの示唆に富んだ内容となっておりますので、ぜひ皆様にもご覧いただきたいと思ひます。

※長野での演習の動画です。

<https://youtu.be>

4fKY0st2GI?si=EUyD932oAIy1sWwv



横浜市では「TKB(トイレ・キッチン・ベッド)」を1ユニット導入することが決定し、今後、避難所の環境改善に向けた動きがより一層活発になるものと期待されております。当クラブとしても、水谷先生のご活動に対し、今後ともできる限りの協力を続けていきたいと考えております。

本日もよろしくお願ひいたします。

■幹事報告

市川 慎二

例会臨時変更のお知らせ

○横浜あざみ RC

5月28日→27日(火) 点鐘12時

青葉区民センター フェリアホール

14時開場 14時30分開演

忘れない東北 XIII

「希望の風」支援チャリティーコンサート

■横浜瀬谷 RC ゴルフコンペのお誘ひ

安藤 公一

横浜瀬谷クラブからゴルフのお誘ひです。

6月20日金曜日 大箱根 CC

■ニコニコ BOX

北澤 正浩／神奈川県立がんセンター院長酒井リカ様よろしくお越しくございました。本日は卓話をよろしくお願ひいたします。

佐藤 利明／①ご無沙汰しており申し訳ございません。②神奈川県立がんセンター病院長酒井リカ先生お世話様になっております。本日の卓話よろしくお願ひいたします。③誕生日祝ひをありがとうございました。

新川 尚／神奈川県立がんセンター病院長酒井リカ様、本日はよろしくお願ひいたします。

佐藤 真吾／神奈川県立がんセンター病院長酒井様、本日はお忙しい所、当クラブ例会にお越し下さり有難うございます。卓話よろしくお願ひいたします。大川前病院長の想ひを引き継ぎ、ぜひロータリーへの参加ご検討お願ひいたします。

安藤 公一／酒井様ご多用中にもかかわらず、ようこそお出でいただき、ありがとうございます。卓話宜しくお願ひ致します。

関口 大樹／神奈川県立がんセンター病院長酒井様、本日はよろしくお願ひいたします。

中島 徹／①先日は妻の誕生日に素晴らしいお花を頂きありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。②神奈川県立がんセンター病院長酒井様、本日は卓話よろしくお願ひいたします。

田川 富男／がんセンター酒井病院長様、本日の卓話ありがとうございます。

岡田 隆／神奈川県立がんセンター病院長酒井リカ様、お忙しい中、お越し頂き有難うございます。本日の卓話よろしくお願ひいたします。

五十嵐 正／神奈川県立がんセンター病院長酒井様、本日はお忙しい所、当クラブ例会にお越し下さり有難うございます。卓話楽しみにしております。

目黒 恵一／酒井リカ先生当時は大変お世話になり有難うございました。本日は卓話ありがとうございます。

市川 慎二／がんセンター長酒井リカ先生、本日はお忙しい中、卓話ありがとうございます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

■卓話「最先端のがん医療を地域に」

神奈川県立がんセンターの挑戦

神奈川県立がんセンター病院長 酒井 リカ様
▷酒井先生略歴

・平成元年 佐賀医科大学卒業後、横浜市立大学医学部附属病院、神奈川県立がんセンターなどで血液内科、腫瘍内科の診療に従事

・令和5年より神奈川県立がんセンターの病院長に就任

・専門はがん薬物療法や造血細胞移植療法(骨



髄移植)

- ・ 関連学会の専門医や指導医の資格をもち、評議員や幹事として学会運営にも携わっている
- ・ 神奈川県内における、がん診療連携がん対策推進にも力を注いでいる

【要旨】

神奈川県立がんセンターは、昭和三十八年、神奈川県立成人病センターとして開設されて以来、六十有余年にわたり、県民の皆様の命を守るべく、がん診療の中核施設として歩みを進めてまいりました。

現在は、都道府県がん診療連携拠点病院として、415床を有し、重粒子線治療やがんゲノム医療、緩和ケアに至るまで、幅広い高度ながん医療を提供しております。平成二十二年には地方独立行政法人化し、より柔軟かつ機動的な医療体制のもと、最先端医療の推進と地域医療への貢献に努めています。

医療の進歩はめざましく、手術はより低侵襲なロボット支援手術へと進化し、放射線療法では重粒子線や陽子線を用いることで、正常組織への影響を抑えつつ、腫瘍に対して集中的な治療が可能となりました。薬物療法においても、がん細胞の遺伝子情報をもとに治療を最適化する個別化医療が進み、これまで治療が難しかった患者さんにも新たな可能性が拓かれています。

当センターが提供する重粒子線治療では、対象疾患の保険適用が拡大され、より多くの患者さんに高精度な治療を届けられる体制が整っております。

また、がんゲノム医療拠点病院として、科学的根拠に基づく最適な治療選択を実現すべく、地域医療機関との緊密な連携のもと、精緻な医療ネットワークの構築を推進しております。

さらに、私どもは、医療の進歩とともに「人を支える医療」の重要性を常に心に刻んでまいりました。とりわけ、「がんを持つ親と子ども」のための心理社会的支援プログラム「CLIMB(クライム)」を実施し、ご家族の心のケアにも力を注いでおります。医療とは科学であると同時に、人と人が支え合う営みであるという信念のもと、患者さんとご家族に寄り添う医療を追求してまいります。

これからも神奈川県立がんセンターは、最先端医療の推進と地域への貢献を両立させながら、すべての患者さんにとって「最良のがん診療」を実現すべく、職員一同、たゆまぬ努力を重ねてまいります。

■ロータリーボイス

公衆トイレの設置：ロータリー初期の奉仕

ロータリーの初期の奉仕プロジェクトの一つとして、1905年にロータリーが誕生した米国中西部の産業都市、シカゴに公衆トイレを設置するプロジェクトがありました。クラブ会員が自らトイレを建設したわけではありません（現在では会員が自ら設置に携わることもあります）。しかし、今日と同様に、ほかの地元団体と協力し、都市部における衛生設備の必要性を訴え、プロジェクトの資金調達を働きかけました。

当時「comfort stations」（快適な場所）と呼ばれていた公衆トイレは、公園や広場などの人通りの多い場所の地下に設置されるのが一般的でした。米国の複数都市の市民リーダーや改革者は公衆トイレの必要性を訴え、シカゴのロータリー会員もその運動に参加していました。

ロータリーの創設者ポール・ハリスと会員のドナルド・カーターは、ほかのクラブ会員や団体と協力し、市内に公衆トイレを建設し、その

ための支援を集める計画を立てました。

1907年10月、Chicago Daily Tribune紙（現Chicago Tribune紙）は、シカゴ・ロータリークラブが「ループ」と呼ばれるシカゴ中心街に公衆トイレを建設する計画を立てたことを報じました。同クラブは、その月の終わりにこのテーマに関するフォーラムを開催し、「この主題は多面的であり、事実を認識し、その重要性を十分に理解することから始めれば、最善の策を講じることができる」と指摘しました。クラブ、シカゴ市、その他の地元団体の代表者がこの会合で発表しました。議論では、シカゴが都市改善の最新手法に遅れを取らないようにする必要性が指摘され、プロジェクトの費用負担や、この取り組みが市の衛生状態や公衆衛生にどのような影響を与えるかについても検討されました。

この取り組みはシカゴ以外でも注目されました。12月には、ニューヨークで発行されている社会問題に関する週刊誌のCharities and the Commons誌が、シカゴには公衆トイレが不足しているという調査結果を報道しました。



米国イリノイ州シカゴのラサール通りとワシントン通りの公衆トイレの入り口。1955年2月以前の写真。

このプロジェクトは、シカゴの醸造業者協会とステート通りの百貨店協会からの反対に直面しました。百貨店協会は公衆トイレを所有している店を代表する団体でした。当時の社会的通念では、男性はバーや自分の職場にあるトイレを使用することができました。しかし、女性が衛生設備を利用できる場所は限られていました。女性が利用してもよいとされていたトイレは、たいてい女性が買い物をする百貨店に設置されているトイレだけでした。

シカゴ市は当時、新しい市庁舎を建設中であり、そこに公衆トイレを設置することが提案されました。1908年3月までに少なくとも1カ所が承認され、その他の場所も検討されていました。シカゴ市とクック郡はそれぞれ、このプロジェクトに約2万ドルを拠出しました。

1911年1月、市庁舎の完成が近づいた頃、Chicago Daily Tribune紙は、「地下には男女用の公衆トイレがあり、ワシントン通りとラサール通りの角から入るようになっている」と報じました。

ポール・ハリスは後に、公共トイレの増設が提案されたものの、資金不足によりその計画が拡大できなかったと述べています。また、将来的に地下道路の建設も見込まれていたため、異なるアプローチが必要になると考えられていました。

現在でも、ラサール通りに面した市庁舎の外壁に、入り口の一つの輪郭を見ることができません。そして、ロータリー会員は今日も、世界中の地域社会に安全な水と衛生設備を提供するための活動を続けています。2025年3月

■次回例会

5/21 佐藤 勉会員 点鐘12:30

場所 みなまき会議室

（夜間例会の予定でしたが、昼間の例会に変更になりました。）